

市政を問う!!

一般質問の要旨

質問者

山口恵子

永井泰仁

古畑秀夫

金子勝寿

鈴木明子

※本文は質問者自身の原稿によるものです



有害自販機

規制の 今後は

◆有害自販機規制条例は

問 規制条件だけでは青少年健全育成はできない。表現の自由、拡大解釈などの問題もある。慎重に。(鈴木)

答 年齢に応じた性教育、インターネット対策なども行っている。長年、交渉により撤去してきたが、設置台数が上回り、県、国からの指摘も。競売地主となっている事業者は撤去に応じない。自販機の規制に限定し、進めている。

◆学力調査・慎重な対応を

問 4月に市内の学校を対象に行われた、学力状況調査の結果を公表するのか。(金子)

答 今後学校の序列化などにつながらないように、周辺市町村との調整を取りながら検討していきたい。

◆通学路の安全確保

問 中山間地域など人気がなく、死角になりやすい通学路の子供たちの安全の確保に向けてはどうか。(金子)

答 地域振興バスの利用等を含めながら、今後も安全確保

につとめてゆきたい。

◆端末7千500円を無料に

問 地域児童見守りシステムモデル事業について端末は7千500円で自己負担の理由は。(山口)

答 端末についての補助がないため。

◆学校ボランティアの今後

問 学校支援ボランティア制度について、今後どのような展開を考えているのか。(金子)

答 今後も細かなマネージメント役について研究していく。

◆母子家庭への支援を

問 母子家庭に対する自立支援の状況についてどうなっているのか。(金子)

答 母子家庭に対しては、経済的支援に加え八ローワークなどと協力し、就職支援の充実を図りたい。

◆子育て取り組み評価

問 子育てに対する市内の企業の取り組みを評価し、簡易型一般競争入札へ点数化して取り入れられないか。(金子)

答 将来的に研究したい。

◆妊婦健診の無料化を

問 母子の健康のため、望ましい妊婦健診の回数は14回とされているが、無料化拡大の進捗状況はどうか。(山口)

答 平成20年度から、県下統



中山間地域の通学に地域振興バスの利用を検討



地域児童見守りシステム(試作品)



通学路の安全確保のさらなる研究を